

## 注意喚起で責任転嫁か！？

Point66、67に続き、8月25日に発生したB11編成のパンタグラフの不具合問題ですが、原因とされるベロー付きバネの交換作業をした大阪仕業検査車両所では、8月27日より本件についての注意喚起がされています。

『8月25日、新横浜駅でB11編成12号車パンタグラフの動作がおかしいと申告があって岡山支所で調査したところ、12号車パンタグラフの天井管とコーベルワイヤー端子が接触していたことがわかりました。このパンタグラフは、8月24日に大仕両で、ベロー付きバネの交換しており、その作業時に天井管とコーベルワイヤーとの間に均等な隙間を開けなかったことと、隙間の確認を確実に行わなかったことが原因です…パンタグラフは大変重要な装置なので、天井管取り付け作業時には、天井管とコーベルワイヤーとの隙間が均等にあることを確実に確認すること…』というような注意喚起が行われているようです。

この注意喚起で会社は、新横浜駅でパンタグラフの動作がおかしいと申告があったにもかかわらず岡山まで走らせたことを会社自らが運行優先であったことを暴露してしまっています。そして、ベロー付きバネの交換に際してチェックシートに準じ、訓練通りの作業を行っても問題が発生した。つまり教育訓練が不十分であったことを意図的に隠しています。

## 思い込みで教育訓練したことを管理者自ら暴露！

JR東海大阪仕業検査車両所分会の分会情報(裏面参照)では、科長が「コーベルワイヤー取付部を覗き込んで確認することが当たり前」とか、「社員から質問がなかったから説明しなかった」と言っているそうです。

(現場社員は「管理者が知っていたはずない、知っていたら説明して当然のことだ」という意見が大半だそうです。)

「…覗き込んで確認することが当たり前」「…質問がなかったから説明しなかった」とは、まさに管理者の**勝手な思い込み**で教育訓練を行ったと云っていることに気づかないのでしょうか？また、隙間管理をチェックシートで指示している以上、その理由を説明して当然の事ではないでしょうか？

科長の発言は、どう考えても会社・管理者が常日頃言っている「絶対に思い込みで作業するな」ということに自ら反し、思い込みで教育訓練を行ったということになります。

まさに、管理者の教育訓練時の不備を社員に責任転嫁しようとする姿勢が見え見えますが、なんとも苦しい言い訳ではないでしょうか。

私たち大阪修繕車両所分会は、今回の事象を早急に全社で共有して、二度と同様の事象を繰り返さないために、訓練に不備があったことを真摯に認め、十分な訓練を実施するように求めます。

# 分会情報

J R 東海 労 大 阪 仕 業 検 査 車 両 所 分 会

No.14 2010.8.30

発行責任者 柿本 克彦

編集責任者 教 宣 部

## B11編成12号車パンタグラフの不具合について

# 社員に責任転嫁は許さない！

8月25日、B11編成12号車のパンタグラフの異常として新横浜駅で発見され、所定運転後、岡山支所で検査されたパンタグラフは、舟体内部のコーベルワイヤー先端取付金具が天井管に接触していたことが発見されました。

その件について、大阪仕業検査車両所では8月27日から点呼において、作業者に問題があったように「周知文」を読み上げています。しかし、それは、不十分な教育・訓練指導を行った管理者の責任を社員に責任転嫁するものです。

## 教育・指導しなかったコーベルワイヤー『かしめ部分』の隙間管理を 覗き込んでチェックするのは当たり前！？

ある社員が科長に「周知文」に疑問をもったので質問しました。すると、舟体部へのコーベルワイヤー取り付けボルトの隙間管理について、科長は『かしめ部分』も覗きこんでチェックするのが当たり前のように言いました。しかしチェックシートには、取り付けボルトの隙間管理が記載されてはいますが、『かしめ部分』の隙間管理は記載されていません。また、訓練はチェックシートにそっての訓練であり「覗きこんでのチェック」は、誰一人も管理者から聞いていません。

## 社員から一人として質問が無かったので言わなかった！

そればかりか科長は、『かしめ部分』の「覗きこんでのチェック」について「社員から一人として質問が無かったので言わなかった」と言い放ったのです。

また訓練において隙間管理の重要性、隙間の不具合によって起こる事象など、何も聞かされてはいませんでした。このような訓練を行った事を棚に上げ、聞かなかった社員が悪いとはよく言えたものです。そもそも十分な訓練を行わなかった会社に責任があるのであり、社員に責任転嫁する事は許さない！

**まず不十分な教育・訓練であったことを認め社員に謝罪するのが常識です。**

**私たち大阪仕業検査車両所分会は安全な車両を提供するためにも、十分な教育と訓練を求めていきます。**